

日赤への乗り入れについて

オンデマンドバスは、運行開始から7年目を迎え、町内完結型運行に切り替え約1年半が経過した。車両の寿命等も含め、より効率的で効果的な運行方法へ見直しを図っていく段階があるが、真に通院目的で拠点病院を利用したい方のニーズを踏まえ、運行方法の一部を見直し、令和2年4月1日より日赤への実証運行を実施する。

オンデマンドバスの目的・役割

○目的

- ・交通空白地域の解消
- ・住民ニーズに対応した移動手段の確保
- ・路線バスの利便性向上と役割に合わせた連携



子どもから高齢者まで安全で便利に移動できる交通機関

○役割分担

- ・隣接市町の駅や商業施設・拠点病院への移動→路線バス
- ・町内の医院や路線バスの乗継拠点までの移動→オンデマンドバス



路線バスで移動できる人は路線バス。路線バスで移動が困難なところをオンデマンドバスが補完するというコンセプトを基に運行

実証運行実施に至る経緯

○利用者のニーズの変化

- ・真に通院目的で日赤へ行きたい高齢者や身体的に不自由な方
→路線バスを乗り継いでの移動が困難



日赤直行便乗り入れを望む声が増加

○H29年度日赤乗降ポイント利用状況について

- ・全体利用（駅までの経由地として通勤・通学で利用する人やその他の利用者含む）
→デマンド全運行に対する利用割合…10%、73.2回/月、58人/年

- ・通院利用のみ
→デマンド全運行に対する利用割合…2%、14.3回／月、41人／年
- ・中村下地区
→デマンド全運行に対する利用割合…0.7%、4.8回／月、20人／年

【課題】

- ・長距離長時間通勤利用者による占有
町内完結型運行に移行する前と同様に通勤・通学利用者等が、その先の目的地へ行くための経由地として長距離・長時間運行利用し占有してしまうことで、交通空白地域の住民や交通弱者の移動が制限されてしまう。

【検証】

町内完結型運行に切り替え以降、1日あたりの利用者数も減少した。H29年度に通院目的で利用していた方を1日あたりに換算すると1回利用があるか無いかという状況であり、従来より課題となっていた長距離・長時間の通勤利用者の利用を制限することができれば、日赤への乗り入れを実施しても、交通空白地域の方や交通弱者の移動が制限されることは極めて低く、現運行体制においても対応は可能。

【対応策】

- ・予約システムにて日赤乗降ポイント利用可能時間を設定
通勤時間帯である7:00～8:00、17:00～19:00の間の日赤乗降ポイントの予約を制限
日赤診療時間である8:00～17:00の間は予約可能



長距離・長時間運行で占有していた通勤利用者の利用を制限し、真に通院目的で利用したい人が予約しやすい環境に設定



現在、町内移動で利用している方の移動が制限される可能性は低く、日赤への通院利用者の移動も確保することが可能

運賃額の設定について

○300 円から 400 円への見直し

- ・当初の運賃額の目標設定

「路線バスよりも高く、タクシーよりも安い」

(基準) 比奈窪～日赤間の路線バス運賃額：230 円 ※現在 250 円

- ・変更の根拠

日赤への主たる通院利用者→中村下地区・井ノ口下地区(全体の約6割を占めている)



比奈窪を基準とした当初の制度設計から内容の見直し



本当に日赤への通院を必要としている人へのサービス提供

日赤という特定の場所への乗り入れという観点



現状の各交通手段の運賃額の状況を踏まえた上で適正な額を設定

『オンデマンドバスから路線バスへの乗り継ぎ利用よりも
高く、タクシーよりも安い』 400円で設定

乗降ポイントの追加について

運行内容の一部見直しを図ることに伴い、新たに乗降ポイントとして設置する。

- 【番号・名称】 129 秦野赤十字病院
- 【設置場所】 神奈川県秦野市立野台一丁目1番地
(正面出入口横タクシー乗り場)
- 【開設日】 令和2年4月1日(水)

●秦野赤十字病院

